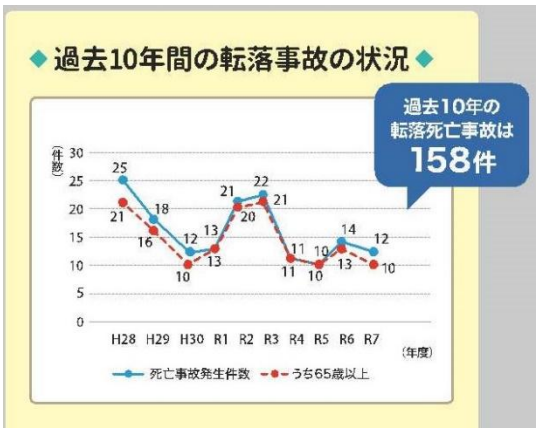
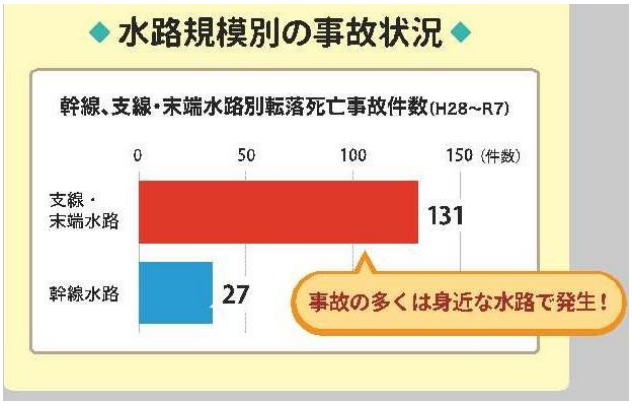
～STOP！用水路事故～

○事例概要

本県の農業用水路における転落死亡事故は、９割以上が65歳以上の高齢者であり、また、生活圏の身近な水路でも発生しています。このため、転落防止柵等の設置とともに、用水路事故を「自分事」として意識し家庭や地域での声掛けが広まるよう、ワークショップによる居住地域における危険箇所の情報共有や広報活動による注意喚起等を進め、事故の起こらない地域づくりを推進します。





○事業の取組み内容

○地域ワークショップ推進事業
・過去に転落事故が発生した地域等を「重点地域」に位置付け
・地域内の危険箇所を住民自らが再認識し、ワークショップを実施
・危険箇所マップを作成して地域住民に周知





○農業用水路転落事故防止強化期間の設定
・農業用水路に近づく機会が増える時期に「強化期間」を設定
・「自分事」として家庭や地域での声かけにつながるよう広報活動を実施
・「強化期間」にあわせ、富山県警と連携して危険箇所を点検
※用水路の周辺に小学校がある場合には学校関係者と連携









○危険箇所に安全対策（セミハード対策）



○ＳＮＳやイベント等による広報
・機会をとらえてＳＮＳを活用し「地域や家庭での声かけ」を呼びかけ



・イベントにおいて広報グッズ（お面、シール）を配布しながら、アンケート調査を実施し死亡事故に至らない転落事故の情報を収集。子供から大人への声掛けを呼び掛け。

